

早稲田大学教育学部

創刊号
Webにて公開!!

「複合文化学通信」

★ 教室の外で楽しんでいることを、
教室の中で学問にしてみよう! ★



2007年4月に創設される早稲田大学教育学部複合文化学科は、
みなさんが楽しみながら学問できる場です。
「でも、複合文化学ってなんなの?」
「科目情報を見ただけで横文字ばかりでよくわからない…」
「卒業後にはどんなところに就職できるの?」
というような声を耳にしました。
そこで、みなさんにはなじみのない複合文化学について知ってもらうために、
「複合文化学通信」をウェブ上で発刊することにしました。

Webにて逐次公開中!!

<http://www.dept.edu.waseda.ac.jp/culture/>

複合文化学ってなんなの？

「複合文化学ってなんなの？」という質問に対しては、2つの答え方があります。

1つは、複合文化学を**定義**する方法。

もう1つは、最初から具体的な例を挙げて説明する方法。

「たとえば」、という言葉ではじめる方法です。複合文化学はこの具体例から話を始めます。

なぜか？

それの方が、**わかりやすい**からです。

聞く人の耳に入りやすいし、聞く人の心にとどまってくれるからです。

複合文化学科が教育学部のなかにあるのは、まず、どのようにすれば人の心にとどく形で教えることができるか、というスキル(技術)を学ぶことができる学科だからです。教育というのは、みなさんが考えるよりも、ずっと広い概念なのです。

では、複合文化学ってなんでしょう。「たとえば」、複合文化学科では**アジアン・ビューティー**を卒業研究の対象に選ぶことができます。

つい最近まで、日本では髪の毛を茶色に染めるのがはやっていましたが、キャメロン・ディアスのようなアメリカの女優ですら髪の毛を黒く染めるようになりました。アジア的な女性の美しさが全世界で見なおされるようになったのです。日本の女性もいよいよ自分の姿を誇ることができるようになったわけです。ただし、残念なことに、日本の女性に自信を与えてくれるこのアジアン・ビューティーというイメージも、実はハリウッドに代表される外国発のものなのです。

アジアの女性が、まずアジア以外の地域でアジアン・ビューティーとして称賛されたということ、このことに複合文化学は注目します。

アジア的なものというイメージは、アジア以外で作られたわけです。日本の女性たちは外来のイメージによって、自分が生きている場がアジアであり、さらには日本であることを再確認するのです。

でも、日本の女性はみな、**ハリウッド**の女優が憧れるような漆黒の髪の毛

毛をもっているのでしょうか？

もちろんそんなことはありません。染めてはいないにもかかわらず、少し茶色がかった髪の毛の日本人女性もいるでしょう。その女性は地毛が十分に美しいのに、アジアン・ビューティーをめざして漆黒に染める、なんてこともあるかもしれません。

かつてサイードという学者が、**オリエンタリズム**という言葉を発明しました。

これは、西洋の人たちが彼らにとって好ましくない数々のイメージを、オリエン、つまり東洋的なものだとし、いっしょくたにまとめておとしめ、自分たちの優越性を確認する態度をさしました。

アジアン・ビューティーはいわば、この**オリエンタリズム**の新たな展開ですね。いまやハリウッドの女優が黒髪に染めるのですから。

複合文化学は、**ひとつに見える文化**が**実は複数の要素からできあがっている**ことを明らかにする学問です。

「**複合文化学 通信**」では、この学科で、どのようなことが学べるのか、どのように学ぶのか、どのような就職先があるのかなど、さまざまな「たとえば」を発信していきます。



Webにて逐次公開中!!

<http://www.dept.edu.waseda.ac.jp/culture/>